

すべての人にコミュニケーションを

コミュニケーションの発達過程

5歳

- 発語が明瞭でわかりやすい
- 会話を続けられる
- 過去や未来のことについて語る
- 個人情報について答えられるようになる
(例：名前、年齢、住所、誕生日など)
- 知らない言葉や物事について質問するようになる



4歳

- 「〇〇君が...」「〇〇ちゃんは...」など文法の基本的なルールを正しく使用できるようになる
- 「どうして？」と質問するようになる
- 童謡の歌や「ハッピーバースデー」などの歌を覚えて歌うようになる
- 簡単な物語を文で伝えるようになる
- 自分の苗字と名前を言えるようになる



3歳

- 2から3ステップある簡単な指示に応じれるようになる
- なじみのあるおもちゃや場所、人の名前を言えるようになる
- 自分の名前や年齢、性別を伝えられる
- 「私」「僕」「君」などの単語を使うようになる
- 発語が少しずつ明瞭になってくるので、普段あまり会うことのない人にもわかってもらえる
- 2文から3文使って会話ができるようになる

2歳

- 名前を聞いたそのアイテムまたは絵を指さす
- 知っている人を指さしたり、体の部分を指さしする
- 頻繁に使う単語が約50語くらいあり、2語から4使った簡単な文で話す
- 簡単な指示に応じる

18か月

- 単語をいくつか発声する
- 「いや」と頭を横に振るまたは発語で伝える
- 欲しい物を指さして相手に知らせる

1歳

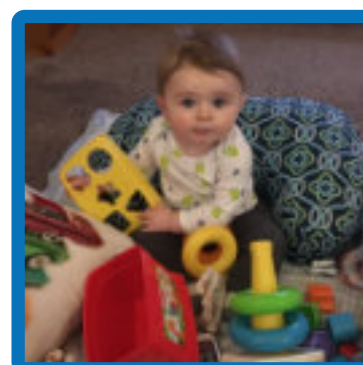
- 簡単な口頭の要求・指示に应答する
- 頭をふって「いや」また「バイバイ」と手を振るなど簡単な身振りを使う
- 音声のピッチを変化させて発語する
- 「ママ」「パパ」や「あーあ！」などを発する
- 聞いた言葉を真似して発しようとする

9か月

- 「ダメ」に反応する
- 「マママ」や「バババ」などの多音節からなる音を発生する
- 他の人の音声や身振りをまねる
- 物を指さす

6か月

- 人の声が聞こえると、それにつられて音を出す
- 名前を呼ばれると振り向く
- 音を出し始める(例：アー、マ、バ、などの喃語)



「障害の重さに関わらず全ての人々が、コミュニケーションによって生活や環境に具体的な変化をもたらすことができる」という基本的権利を有する。

重度障害者のコミュニケーションニーズに関する
全国合同委員会 (NJC) (2016)

PECS® (Picture Exchange Communication System®

絵カード交換式コミュニケーションシステム™) は、絵/画像を使用しながらコミュニケーションスキルを伸ばす、他に類を見ない拡大/代替コミュニケーションシステムです。



PECSは様々な人々によって使用されています：

- ・ コミュニケーションを自発しない
- ・ 発語が話し相手に理解されない
- ・ 単語を組み合わせて文章またはフレーズを作るのが難しい方
- ・ 発語でコミュニケーションを取らない

PECSは年齢層に関係なく様々な障害者の方々に使用されています：

- ・ 自閉症スペクトラム
- ・ アンジェルマン症候群
- ・ 発達言語協調障害
- ・ ダウン症候群
- ・ 複雑なコミュニケーションニーズ
- ・ 発達障害
- ・ 遺伝性疾患
- ・ 頭部外傷

PECS:

- ・ コミュニケーションパートナーを見つけ、注意を引き、メッセージを伝えるように学習者に教える
- ・ 身の回りにいる多くの人々とコミュニケーションをとるための効果的な方法です
- ・ 文の語数を増やし、コミュニケーションの可能性を広げます
- ・ 幼児期に導入された場合、発語でのコミュニケーションができるようになる可能性が高まります



詳しくは事務所までご連絡ください。
www.pecs-japan.com

